



このコーナーでは、水資源機構の環境保全の取り組みを紹介します。

草木ダムの水質保全

重金属対策



草木ダムは、渡良瀬川上流に作られた多目的ダム（洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい用水、水道用水、工業用水、発電）です。上流域に旧足尾銅山を抱えているため、建設当時から銅、亜鉛など重金属への対応が課題となっていました。

そのため、建設当時に専門家からなる委員会を設置し、対策の検討を行った結果、重金属対策として選択取水設備の設置、水質の監視を行うこととなりました。

これを受け、草木ダムでは管理開始当初から選択取水設備の運用により放流水の重金属濃度を低減するとともに、管理所内に設置した水質分析室で日々重金属濃度などの監視を行っています。

クリーンアップレイク事業



草木ダムでは、昭和59年に貯水池内でフォルミディウム（藍藻類）が異常増殖し、ダム下

流にある群馬県桐生市の水道水がカビ臭くなるという新たな問題が発生しました。

そのため、平成4年度から開始されたクリーンアップレイク事業により、散気管式浅層曝気循環設備が設置されました。本格稼働した平成10年からはフォルミディウムの増殖が抑えられ、水道水の異臭味問題は発生しておらず、ダム湖の水を噴水状にして空中に噴き上げることで良好な景観も創り出しています。なお、水質分析室では、これら問題となるプランクトンの計測も行っています。

このように草木ダムでは、「貯水池の保全、環境保全を図り、安全で良質な水を安定して供給する。」を目標に掲げ日々管理を行っています。

また、環境保全の取り組みの一環として、栃木県日光市足尾町での植樹活動や群馬県みどり市の森林教室などにも積極的に参加しています。さらに、足尾町地域では、このほか、国、県をはじめ各種団体が植樹活動を行っております。参加されてみてはいかがでしょうか。



水質自動観測装置（たけのこ）（手前）と噴水合体型散気管式浅層曝気循環設備（奥）



足尾町での植樹活動